

第2回「協働のまちづくり部会」会議録

日時：平成16年12月12日（日）

午前10時～午後零時5分

場所：市役所3階301議室

出席委員 13名

- | | |
|------------|----------------------------|
| 1号委員 | 田中喜佳、柳田吉範 |
| 2号委員（各種団体） | 芝本清一、溝端繁 |
| 2号委員（公募） | 太田寿忠、木之下純子、白木直子、村上いつ美、横谷卓也 |
| 3号委員 | 久隆浩（部会長）、田中晃代（副部会長） |
| 4号委員 | 神田経治、藤進 |

欠席委員 1名

- | | |
|------------|------|
| 2号委員（各種団体） | 常石宜子 |
|------------|------|

事務局

- | | |
|--------------------|-------|
| 企画総務部企画経営室企画グループ長 | ：土井信雄 |
| 企画総務部企画経営室企画グループ主幹 | ：中野隆夫 |
| 企画総務部企画経営室企画グループ主査 | ：小川祥 |
| 企画総務部企画経営室企画グループ主査 | ：山口麻子 |
| 企画総務部企画経営室企画グループ | ：小池悟史 |

(株)日本総合研究所

- | | |
|-----|-------|
| 研究員 | ：高橋秀文 |
|-----|-------|

【土井企画グループ長】

皆さんおはようございます。今日は、第2回協働のまちづくり部会ということで、お休みのところ出席いただきまして、ありがとうございます。まず、本日の資料でございますけれども、郵送で本市の災害への危機管理体制の資料を送付させていただいております。

それから、今日は欠席でございますが、常石委員より、新潟中越地震に際する取り組みということで、資料をいただいております。以上2点が本日の資料ということでご提示させていただいております。それでは、久部会長の方からよろしく願いいたします。

【久部会長】

おはようございます。日曜日のお休みのところ、お出かけいただきましてありがとうございます。前はどちらかというところと自己紹介と簡単な意見交換ということでございましたので、実質の議論は今日からということになるかと思っております。また、今日も色々とお話をしたいと思っております。それでは、先ほども事務局からお話がありましたが、前回、安全安心都市の議論の中で、少し資料を提供していただきたいというお話がありましたので、事務局の方で作って頂きました。簡単にこの資料のご紹介をお願いしてから議論に入りたいと思っておりますので、まず、資料のご紹介をよろしく申し上げます。

【中野企画グループ主幹】

それでは、お手元に部会資料ということで、郵送でお配りしたものを、皆さんお持ちでしょうか。そうしましたら、この資料につきまして、まず1ページから9ページまで、こちらにつきましては、河内長野市の地域防災計画ということで、災害対策基本法の第42条に基づきまして、平成10年に策定したものの抜粋でございます。本書につきましては、こちら、私が持っておりますけれども、かなりのものでございますけれども、市域に関わります災害の予防対策、災害応急対策、災害復旧・復興対策等に関しまして業務の大綱を定めて、災害から市民の生命、財産、生活を守るとともに、防災行政の強力な推進を図ることを目的として定めたものでございます。

次に、こちらの方で、資料の1ページでは、河内長野市の概況、自然・社会的条件につきまして書いてございます。こちらの方は、地形としましては、市域の南部から和泉山地ということで、本市の和歌山県との境界に標高700mから900mの山地がございまして、そちらの岩湧山の北側に、一徳防山地ということで、400から600mの山地がございまして、本市の北部におきましては、南河内丘陵及び石川段丘ということで、丘陵及び河成段丘の地形となっております。本市北部におきましては、石川の氾濫源というものがございまして。

土地利用につきましては、明治から昭和30年代まで、鉄道、旧街道に沿って市街地が発達しておりました。その後、昭和40年から50年にかけて、急激な市街化によりまして、段丘面や丘陵地に大規模宅地の造成、及び、平野におきまして、宅地化が行われております。それに伴いまして、地震災害及び風水害、土砂災害を受けやすいと考えられる地域が拡大しております。

次に災害の履歴でございますけれども、地震災害につきましては、本市の被害事例としましては、最近では南海道、この「道」はすいません、「道」を取っていただきたいと思っております。訂正をお願いいたします。南海地震でございます。昭和21年12月21日、及び、吉野地震、昭和27年7月18日、によるものがございまして、過去には、紀伊半島沖を震源として、マグニチュード8クラスの巨大地震や、マグニチュード7クラスの地

震があったという記録を記載してございます。

次に、風水害の履歴でございますけれども、風水害につきましては、室戸台風、ジェーン台風等がございまして、近年では6番ですね、昭和57年、台風10号によりまして、こちらの方は雨量が209mm規模の雨量がございまして、府下で死者8名、負傷者4名という大きな被害がありまして、本市におきまして、土砂災害によりましてかなりの被害がありました。

次に3ページでございますけれども、平成7年7月の集中豪雨によりまして、総雨量262mmがございまして、本市の被害につきましては、床上浸水15件、床下浸水48件、最大39人が2箇所に避難したものでございまして、農林道、河川等の被害については1,000件以上ございました。また、平成10年の台風7号によりまして、こちらの方は風台風で、午後3時頃、本市で最大瞬間風速49.8mを記録し、台風によりまして、622件の公共施設、農産物被害が101.6ha、倒木等による森林被害が271haに及びまして、住家の被災においても600戸を超えるという状況でございました。

土砂災害につきましては、本市につきましては、土砂災害が発生しやすい山地丘陵部がかなりの面積を占めておりまして、先ほど申し上げました、57年、平成7年等に大きな被害がございました。

次に4ページでございますけれども、こちらの方につきましては、阪神淡路大震災を契機としまして、地域住民の活動、自主防災体制ということの、こういったことをやっていただくかということ、市民の自主防災組織の組織、構成、活動内容、災害時の活動等、あるいは、5ページに、事業所の自主防災組織の活動について説明してございます。

本市におきましては、自主防災組織といたしまして、松ヶ丘の婦人防火クラブ、千代田第2住宅自治会、サニータウン自治会、南花台自治会、南花台公団自治会、それに野作自治会を加えまして、合わせて、平成16年4月1日現在で、44,425世帯のうち、6,477世帯、14.58%の自主防災組織の構成率となっております。また、自主防災組織に関しましては、現在、河内長野市の方でも団体の育成に努めておりまして、現在、4団体におきまして、自主防災組織の検討がされております。

それでは、7ページから9ページについて説明いたします。7ページにつきましては、災害時の風水害の配備体制について。それから、8ページ、9ページにつきましては、地震時におきます災害時の配備体制について書かれておりまして、まず、7ページの災害時の配備体制の風水害におきましては、体制としまして、事前配備、警戒配備、非常配備、緊急配備ということで、事前配備につきましては、災害の気象予測、気象の警報等によりまして、その体制、事前にこういった形をとるか、災害対策本部設置前の事前配備体制についてでございます。警戒配備につきましては災害対策本部を設けまして、災害の状況によりまして、また、非常配備、緊急配備ということで、警戒配備につきましては、職員の約3分の1体制、非常配備につきましては3分の2、緊急配備につきましては全職員ということで、体制を取るよう定めております。

次に、地震時におけます体制なのですが、8 ページ、警戒配備につきましては、震度 4 の地震が発生した時は、課長級以上の職員によりまして、閉庁時には登庁するという事です。また、震度 5 弱以上につきましては、非常配備としまして、係長級以上の職員につきましては、閉庁時には登庁するというものでございます。また、緊急配備につきましては、震度 6 弱以上の地震が発生した時、閉庁時においても登庁すると。開庁時におきましては、危機管理室におきまして、体制を組むこととなります。また、この体制につきましては、9 ページに図式化しております。

それでは、続きまして 10 ページ、新潟中越地震の府内の各市町村の支援状況について一覧表にまとめたものでございまして、河内長野市では携帯トイレ 500 個を被災地の方に送っております。

11 ページ、及び、12 ページについては、こちらは、大阪府の支援状況について説明したものでございます。

それでは、今年度の台風・地震等の災害につきましてですが、13 ページ以降です。13 ページにおきましては、平成 16 年度の災害の発生の記録をまとめておりまして、幸いにも大きな被害というものはございませんでした。14 ページにおきましては、台風 21 号の市の体制につきまして、時系列で表にまとめてございます。自主避難者につきましても、下表にまとめてございます。こちら、14 ページの 9 月 29 日の 13 時 5 分「防災参事会」とございまして、道路や下水などの担当課長によりまして、市の今後の体制、予報等を情報を分析して、こういった体制を組むかということを決める会議でございまして、これによりまして、災害対策本部等の設置というものが、会議によって決定することとなります。

15 ページにつきまして、台風 23 号の体制につきまして、これも時系列でまとめてございますけれども、こちらにつきましては、真ん中少し上の所で、「事前配備体制」ということで、こちらについては、先ほど風水害のところで申し上げました事前配備ということで、この際は、職員 220 名規模で警戒にあたって体制を組んでございました。こちらの台風についても、幸いにも大きな被害はなく無事に終わりました。17 ページにつきましては、この台風の進路等につきまして経路図を紹介してございます。

以上でございます。

【久部会長】

ありがとうございます。常石さんの方からも、市民側の動きをメモでいただいておりますけれども、これは読んでいただければ。義援金、ボランティア活動推進委員会の方で義援金の募集をしたということが、ご報告いただいておりますので。

それでは、今から意見交換に入らせていただきたいと思いますのですが、我々の部会に与えられたテーマは、構想骨子(案)の一番後ろの 12 ページのところで、協働のまちづくり部会で議論していただきたい内容が一番コンパクトにまとまっていると思うの

ですけれども、12ページの(4)番と(5)番、安全安心都市という内容と、(5)番目の自律協働都市、この2点を集中的に我々のところで議論をして、全体に反映をすると、こういうようなことになっていこうかと思えます。今、私の時計で10時15分過ぎですので、50分、50分ぐらいで、(4)番の安全安心都市と、自律協働都市と、まず今日は、皆さんの思いとか考えを出し合ってみたいなと思えます。まだあと1回、このテーマで議論する時間がございますので、今日は、私としては、まとめるよりも、どちらかという、皆さんのご意見をまずは出し合ってみたいというように思っておりますので、よろしくお願いをします。

まず、4番目の安心安全都市の方からやっていただきたいと思えますが、どうしても今の資料に頭が行ってしまいますと、の非常時への対応ということに話が行ってしまうのですけれども、ここでのテーマは、の日常生活における安全安心の確保と、それから、の都市基盤の充実ということで、この辺りもご意見がありましたら是非とも出していただきたいなと思えます。特に、最近はの子供達の安全が確保出来ない状況というのが続いておりますので、その辺りのご意見も是非ともいただきたいと思えますし、それから、消費生活ということでは、オレオレ詐欺のようなことも起こっておりますので、こういう観点も是非ともいただきたいなと思えます。それから、基盤整備ですね、道路とか上下水、住宅等の問題も我々の議論の中でのお話でございますので、こんなところでお話をいただきたいと思えます。

内容的には以上のような内容なのですけれども、もう一度9ページのところをご覧いただきたいと思えますけれども、今、事務局として、(4)の安全安心都市というところに5つの黒丸で項目がございます。この辺りに、今は項目出しで書かれておりますけれども、ここに数行の文章で最終的には皆さんのご意見をまとめて書き込みたいなと思っております。多分、皆さん方のご関心は1つ1つの事例をどういう形で対応していくかということになるかと思えますけれども、そこまではなかなか総合計画の中では書き込めません。多分、先ほどの、子どもの安全の話をそれだけ取り上げて、数回議論をしないといけない内容になってくると思えますので、総合計画の審議会としては、あまり細かな話に立ち入って議論するのではなくて、大きな方向性とか、あるいは市役所、あるいは市民が、どういう姿勢でそんな問題に望んでいけばいいのかという辺りが、多分、最終的な文章の中には入ってくる話かなと思えます。

ただ、それだけを議論していてもなかなか先に進みませんし、なかなか意見も出しにくい所でございますので、意見の場合はかなり具体的な問題でも構いませんけれども、少しご理解いただきたいのは、最終的にはその中のエッセンスを取って、大きな方向性とか姿勢の部分を書き込むということになると思えますので、1つひとつの問題を深くやる時間も、ちょっと申し訳ないのですけれども、取ることが出来ませんので、その辺りをうまく私の方では、ある意味で捌かせてもらいますので、あまり大きな方針とか、そこから辺に縛られる必要もないのですけれども、1つのことを重点的にやっていくと時間が

少しなくなりますので、その点を少しだけご配慮をいただきながら、意見交換に入っていきたいと思います。

それでは、後は皆様方のご自由な意見交換ということで、移っていきたいと思いますので、どういう観点でも結構です。先ほどの資料の質問でも結構ですし、日ごろ、少し、色々とお思いになっているところからご披露いただいても結構です。いかがでございましょうか。

なかなかこういうのは第一声を発するのは難しいのですが、どなたでも結構です。いかがでしょうか。

【柳田委員】

日ごろ思っている関係をちょっと、また皆様のご意見を聞きたいという前提で申し上げますと、1つはこの、2項の関係なのですが、防災という意味で、今回、新潟中越地震が起きまして、その時の新聞などを見ていますと、阪神淡路大震災の経験が各家庭でどこまで活かされたのかというのを、もう一度問い直してみる必要があるのではないかという思いを実は強くしているのです。というのは、家具の崩壊、倒壊などで怪我をされた。我が河内長野の住民が、どれほど阪神淡路大震災でボランティアを含めてかなり努力をされた。しかし、振り返ってみると、自分の家ではどこまで出来たのかなと。そのことに対する取り組みが少し必要ではないかなという風に少し思ったのが1つです。

もう1つは防災の関係で、市が地域防災、総合防災をやっているのですが、それに対する、地域の住民がどれほどそれに関わっているのかという点が、かなり弱い点になるのではないかと。そういう意味での、今日まで市が取り組んでいる防災のあり方そのものを、もう一度考え直す必要があるのではないかとも思っていますので、その点を少しご意見をお聞きしたいなど。

【久部会長】

ありがとうございます。皆さんに投げかけていただいたということで理解しているのですが、阪神大震災の教訓、私達も学生をボランティアで送ることで色々情報を収集したりしましたが、こういうボランティア派遣とか、あるいは震災後の対応は、かなり阪神大震災の教訓は活かされていると思うのです。10年前よりも、かなりスムーズに色々なものが動いていますし、こういうシステム化という意味では、非常にうまく行っています。例えば、具体的に言いますと、仮設住宅も早々に完成して、今回の場合は、集落ごと、コミュニティごとで移転をするという形で、出来るだけお1人おひとり、特に高齢者を孤立させないという形で移転が始まっています。もう1つの細かい所ですが、共同風呂を沢山作っています。どうしてもお年を召した方は、仮設住宅で閉じこもりがちになりますから、出来るだけ風呂という形でも、引っ張り出して

きたいというような工夫もあったり。それから、情報でもインターネットで即座に、被災地でどういう状況があって何が足りないのかということも、すぐに入るような体制になっていますので、そういう意味では柳田さんの方からいただいたように、全体のシステムとしてはかなり教訓が活きているのですけれども、各家庭とか、各個人の問題として、「さあ、どうなのか」ということなのですけれども、いかがでしょうか。個人的な思いでも結構です。「やあ、私のところはまだまだだやわ」という話でもいいし、あるいは、「うちはちゃんと出来ていますよ」というお話でも結構です。特に市民委員さん、いかがでしょうか。木之下さんのお宅ではということで結構です。

【木之下委員】

今、柳田委員から出たように、各家庭で活かしているかなと言われると、うちのことを考えてみたのですけれども、「そういえば棚の上には何か載ったままになっているな」とか思っていたのですけれども、やはりそういうようなところまでは行ってなくて、対岸の火事のような部分が、まだまだ私の家を見渡してもあるかなという部分はありますので、そこらは、やはり、他の色々な災害とかでもそうなのですけれども、つい、どうしても自分のところは最後になるのかなという気がしますので、その辺りをこれからどうしていくかということも大事かなと、今、思います。

それから、地域住民の方で、それから、この前、今日、資料を読ませていただいて、市の方ではすごい、各地域の防災とかそういう風なところに取り組みをしていっているということなのですけれども、私のところの地域は、一番最初に住宅が出来た時に火事があったのです。それから後、火事ということについては、町内全体で取り組みということになっているのですけれども。あと、防犯なども、防犯ベルなどもつけて取り組んではいるのですけれども、そういうような色々な知恵とかそういうような部分が、何か、ここに出ているところには、うちの自治会は載ってないんですけど、やはり、それぞれの地域でやっていることが、そういう風な部分も色々な情報交換などが出来ながら、これから今後、そういう風な分をそれぞれが活かしていけるようにという風なシステムというか、情報を全体に集約出来るような部分があればいいなと思います。

それから、市の取り組みなんかも、私なども、先ほどの防災のこととか、防災というか地震とかそういうのと同じなのですけれども、何かやってくれているのだろうけど、何をやっているのかというのは、なかなかね、広報などでも色々やってくださっているのですけれども、つい自分のものとして受け取るという部分が、まだまだ受け取りきれない部分があるように思うし、それを受け取れないという部分はどのような部分なのかなという部分が、これからの課題なのかなと今ちょっと、柳田委員のご意見とかお聞きしながら、ちょっとそういうようなところを今、感じているところです。

【久部会長】

具体的に例えばどういうことをすれば市民にもっと情報が伝わるか、あるいは地域の方々に情報が伝わるかというのは、何かアイデアはありますでしょうか。

芝本さんとか溝端さんは、具体的に地域の中で色んな方に取り組みを呼びかけておられるけれども、なかなか伝わっていかないという現状もあるのではないかと思いますので、その辺りはいかがでしょうか。

【溝端委員】

まず、安全安心のまちづくりということになりましたら、防犯と防災があると思うのです。防犯についても、まだ自分自身で犯罪を防ごうという意識が希薄で、防犯委員が現在、29支部で活動してもらっているのですけれども、一般住民の方々が自分で守ろうという意識がなかなか徹底していないということで。先日、12月5日に、キックスで防犯大会をやったのですけれども、これは、防犯、防火、青少年健全育成市民大会ということで。1時間ほどやりまして、その後、約1時間かけて、講師の方をお願いして、安全のまちづくりについて色々講演していただいて、市の方も最近、各自治会に自主防犯組織の結成ということを色々呼びかけておりまして、その方はこれから徐々に浸透して参ると思うのですけれど。

一方、防災について、新潟の地震の情報、テレビなどを見まして、河内長野市は5つの谷に分かれておって、おそらく大きな地震がきたら、山が崩れて道路が通行不能になるという予想はしているのですけれども。新潟のように道路が盛り上がったたり、段差が出来たりして通行不能になることを考えていなかったのですけれども、そうなりますと、滝畑、それから、川上、加賀田の方とか、恐らく孤立すると思うのです。その場合、やはり、救援活動のやり方をもっと突っ込んで考える必要がありますし、それから、市の方でも市の職員による体制を考えて作っていただいておりますけれども、これからはやはり、自治会自身でも対策を色々、チーム作りとかいうことでやっていかないといけないと思うのです。それについては、市の方でマニュアルを作っていただいて、各地区でそういう研究会とか、組織を作ってもらってやっていく必要があると思うのです。私は高向地区なのですけれども、先だって区長の方からそういう組織を作るのにご協力を願いたいというお話がありまして、いいことだなということで。やはり、これからそういうPRというのでしょうか、教育というのですか、各自治会でそういう組織を持ってもらえるように、もっともつが力を入れていく必要があるのではないかと、そういう風に思います。

【久部会長】

ありがとうございます。芝本さんは何か、特に今、青少年健全という意味では、最近の動向からしんどい面もあるかと思うのですが。

【芝本委員】

何かが起こらないとやはりやらないのですね。例えば、事件があると市の方から色々言ってくれますよ。パトロールしろとかね。今は、車につける分で、「パトロール中」というのを付けて走っています。そういうことでもしないと仕様がなくなると。

ただ、今言われたように、私も60年ほど長野に住んでいますけど、親父の話ではないけれど、一番ここはいい市だと、災害のないまちだと聞いています。だから、結局我々は、台風が来ても、「ああ、済んだか」という感じで、水害もあまり記憶にないし、ピンとこないですね。地震といっても、阪神大震災は自分の経験では一番大きい、家が揺れたから。しかし、何の被害もなかったですね、この辺では。だから結局、ピンとこないというのが。

【久部会長】

そうですね。私も色々な市町村でお手伝いさせていただきますけれども、今日の資料を見せていただいても、他の市ではもっと沢山の水害の履歴とか、被害の履歴が出てくるのですけれども。それに比べると、やっぱり芝本さんがおっしゃるように非常に安全な。

【芝本委員】

ずっと長い間ね、何が来ても心配ないかなと。台風のコースを見ても、「まあ何も来ないやろう」と思ったら何も来ないし。

【久部会長】

と言っても、何が起こるかわからないのですからね。

【芝本委員】

まあ、ならないとわからないというのがね。

【久部会長】

その辺りどうですかね。今、地域の取り組みとか家庭の取り組みの話が出ていますけれども、私も色々なところで地域活動もお手伝いして、自治会を中心とした地域活動に取り組んでらっしゃる方は、一生懸命、地域で取り組まれるのですけれども、ちょっとそこへまだ入っておられない方は、どちらかと言うと地域の取り組みも他人事のように見えてしまうのか、なかなか伝わってこないという部分があるのですけれども。特に、お若い横谷さんと村上さんとか白木さんとか、そういう地域の取り組みと自分の関係とか、距離みたいなもので、少し何かご意見をいただければと思うのですけれども。

【横谷委員】

私は清見台に住んでいるのですが、もともとのお祭りとか、そういうものもあまりなくて、清見台の夏祭りとかしていて、当番が廻ってくるのですけれども、帰ってくる時間も遅いとかバラバラであるとかで、なかなか地域の活動とかも把握していないところが沢山あるのです。でも、私は 27 なののですけれども、同級生が何人か残ってしまって、帰りの終電とかで色々話すこともあるのですけれど、あまり組織として拘束されると、絶対出ないとダメとかいう組織に入ってしまうと苦しいんですよね。何か意見交換する場とか、いつでもそういうことをやっているところがあって、そこに何か思ったことがあったら意見を言いに行く、働きに行く、いついつこういうのがあるから来てよという声をかけてもらうところがあれば、防災に関しても防犯に関しても色々協力できることがあるのではないかなと、常々考えているのですけれど。そういう、組織じゃなくて、集まって来れるようなところがほしいなと思ってます。

【久部会長】

はい、ありがとうございます。村上さん、白木さん、いかがでしょうか。

【村上委員】

私も、ここに参加させてもらうまでは、どんな組織があるかということを知らなくて、いっぱい組織があるんだなということを知ったのですけれども、広報誌なんかでも呼びかけているかもしれないのですが、あまり見ていない人とかも多くて、もっと違う形でも、「こういうのがあるんだよ」ということを言っていないと、あんまり参加しにくいというか、わからないです、やっているということが。

【久部会長】

例えば、逆にどういうものだったらよく読むとか、情報をキャッチ出来るというのがありますか。普段、色々な情報を集めていらっしゃるじゃないですか。どういうところが一番、情報として自分には入ってきやすいのか、もしあれば教えていただきたいのですが。

【村上委員】

やはり、インターネットとかもホームページとか、私はこれをやらせてもらっているのですごく見るのですけれども、やっていない時は全くと言っていいほど河内長野市のホームページとかも見たことがなくて。私は、もともと広報紙を読むのは好きだったので、この総合計画委員のことは知ったのですけれども。だから、入ってくるといえば何ですかね。

【久部会長】

ご近所の方はどういうもので地域の情報をキャッチされているのですかね。そういう立ち話とかしませんか。

【村上委員】

市のことについて立ち話はあんまり、同世代ではないですね。

【久部会長】

白木さんはいかがでしょうか。

【白木委員】

私もインターネットはよく使うのですが、こういうところに参加させてもらうのもインターネットで情報を見たりしていたのですね。やはり、インターネットというのは、ツールがあればどこでも見れると思うのですけれども、そういうところにそういう情報が載っているということがわかれば、見たい時に気軽に見れるものじゃないかなと思います。

防災に関しても、市の取り組みとかも全然知らないで、会社の方で、災害時にどういう風に対応をするかということは、会社ではすごくやっていて、阪神大震災の時も、会社の方から物資とかを、持って行ける人が持って行くという感じで。そういう時は、会社の方が手助けしてくれるのかなという甘えみたいなのがあって。地域がどういう風に活動するかという、そういうことは全然、まだ情報というか、組織としてどうなっているかというのは、全然自分の目には、今の時点では見えないという感じで。

【久部会長】

今のお話を聞いていると、1つ何か手掛かりがあるかなと思いましたのは、いざとなった時に、誰が支えてくれるのか、助けてくれるのかという話の中で、白木さんの場合は会社が助けてくれるのではないかという話になったのですけれども。そのあたりが1つ、防災とか防犯を考えていく上では、ポイントかなんと思うのですけれども。

【田中（晃）副部会長】

いざという時に助けてくれるという話で言いますと、例えば、会社に入られている方は会社で助けて下さると。でも、どこの組織にも入ってない方というのも結構いらっしゃるみたいなのですけれども。例えば、うちの義理の母などは、70歳以上で、自治会は入っていますけれども、それ以外の組織というものには全然入ってなくて、例えば、親族が、中越地震で被害があった時にも、安否確認という手段があったのですけれども、これもどうやって連絡したらいいのかわからないと。ましてやインターネットも見ない

という状態で。高齢者を中心としたそういう方もいらっしゃるって、そういう方に対しては、多分、新潟だと自治会の加入している方が多いと思うのですが、河内長野ではいかがなのでしょう、自治会組織の加入率とか。自治会から色々な情報を得て、色々な救援物資がどこにあるかとかいうのはわかるかもしれないのですが、神戸の場合は、私が住んでいたところはかなり自治会の加入率が悪かったのです。情報があまり行き届かなかったというのがあったのですが、この河内長野では、加入率の問題とか、高齢者の問題とか、若い方のこともあるのですが、いかがなのでしょう。ちょっと伺いたいなと思ってまして。

【久部会長】

いかがですか、今、自治会加入率。

【中野企画グループ主幹】

自治会の加入率でございますけれども、市域で78.5%となっております。

【久部会長】

経年変化はわかりますか。多分今、柳田さんが驚いていらっしゃるように、多分、8割、9割はあるだろうと、入っている方は思われるのです。ところが今、実際としてはもう、8割を切っているという状況。

【芝本委員？】

どういうところが、人が入っていないのですか。

【中野企画グループ主幹】

こちらの方は、約10年前、第3次総合計画時の資料でございますけれども、30,589世帯に対して、加入世帯は21,485。約70%が10年前でございます。

【久部会長】

増えているということですか。

【中野企画グループ主幹】

そうですね。

【久部会長】

それはいい傾向ですね。

【溝端委員】

パーセンテージだけ。

【中野企画グループ主幹】

78.5%、はい、そうです。

【溝端委員】

大体、ミニ開発がされたところは入っていないみたいなのですね。

【柳田委員？】

そこが難しいのですね。

【久部会長】

自治会がない地域というのはありますか。例えば、78.5でも、ちゃんとあって、その中で何件かが入ってないという状況なのか、あるいはポコポコともう自治会自体もない地域があるのかというのは、今のデータがもしわかれば、わからなければいいのですけれども。

【中野企画グループ主幹】

そのことろまで詳しくはわかりません。

【久部会長】

なぜお聞きしたかという、私八尾でも色々とお手伝いをしていまして、八尾もかつては9割近く加入率があったのですけれども、だんだん下がってきて、今は8割を割ろうかというところまで来ているのです。だから、今の河内長野も同じような状況になりつつあるのですけれども、かなりそういう意味では危機感があるという感じなのですよ。

多分、先ほど横谷さんがおっしゃったような、あまり組織の中で縛られたくないのだけどという方がおられると。ただ、先ほどもおっしゃってくださったように、でも、関心がないとか、あるいは、何もやりたくないのではないのですよね。ただ、どうなのか、自分の時間も忙しいのでなかなか地域の方々のペースとあわせて活動するのが難しいという意味で、なかなかそこまでどっぷりという話では躊躇があるのではないかなと思いますけれども。

いかがでしょう、そういう意味で、なかなか地域での支え合いというのは、先ほど田中（晃）さんからありましたように、カバー出来ているのか出来ていないのか、課題があるとすればどういうところなのか、あるいは、それをどうやって解決の方法を見出し

ていけばよいのかという所だと思うのですが、いかがでしょうか。どうも今までのお話を聞かせていただきますと、1つは情報の伝達とか、情報の共有というところに、まだ少し課題が残っていて、うまく情報をお互い流しあう仕組みとか、工夫がいるのではないかなというお話だったと思うのです。

それと、もう1つは、支え合いの基本となるところが、もっともっと考えていかないといけない。特に、先ほどもお話があったように、何かがあれば一丸となる部分もあるのですけれども、日常のところでは、なかなか気持ちの通い合いとか支え合いの仕組みが持ちえているかということ、少し心もとないところがあるのではないかという話だったと思うのですけれども。

あと、少しまだ時間がありますので、安全安心というところで、何か、先ほど、番から番ですね、日ごろ思ってたこととか、何かございますでしょうか。

【横谷委員】

情報をどこから仕入れるかということで、付け加えたいなと思ったのですけれども、通勤してらっしゃる方は朝、三日市の駅でよくいただいている、僕もよく感心しているのですけれども、駅で得る情報というのも多いので、小冊子とかがささっていたらいいなと、配ってらっしゃるものはもらうようにしていて、駅での情報を収集するのが、私の河内長野の情報との接点の1つなのですけれども。

あと電車の中でラジオを聞いたりするのです。周りのおじさんとかお兄さんとかもラジオを結構聞いている方がいらっしゃるの、河内長野にはそういう放送局はないと思うのですけれども、緊急時にそういう情報を流していただければ、ラジオをいつも持っている、いいのではないかと思います。それが僕の河内長野の情報の接点の1つだということをつけ加えたいと思います。

【中野企画グループ主幹】

先ほど、3次総合計画時の自治会世帯数なのですからけれども、先ほど申し上げましたのは、自治会の中の連合化された自治会構成率でございます。実際は87.7%です。

【久部会長】

これは、現在ですね。

【中野企画グループ主幹】

10年前です。

【久部会長】

下がっているということですね。

【中野企画グループ主幹】

そうです。申し訳ございません。10年前には87.7%であったものが、78.5%と。

【久部会長】

ですから、先ほどお話した八尾と全く同じです。9割近くあったものが今、8割を切る状況になってきているというのは、八尾も河内長野も全く同じ条件という感じです。

先ほど、横谷さんがお話のあった、駅で入手する情報という話で言うと、今、市の色んなパンフレットとか広報紙は駅のところには置かれているのでしょうか。

【中野企画グループ主幹】

置いています。

【木之下委員】

千代田駅なんかにあるのは、よく減っていますよね。私は千代田なのですけれども。

【柳田委員？】

縦型のカゴみたいなのに入っていますよね。

【木之下委員】

すぐに減っていることは減っています。今日置いているなと思って帰ると、次の日にはないので。沢山取っているのか。その後補充はないですね。

【中野企画グループ主幹】

そこまでは。多分、連絡があれば、駅員の方々が見て、連絡があれば多分入れていると思うのですけれども。逐次見に行ったりはしていないと思います。

広報紙などでしたら、配布用、それと、そういったチラシというか駅置き用という形で、数に限りがございますので。三日市の駅でしたら、改札を出て右側のところ、河内長野の駅は改札出て右手前側のところ、千代田駅につきましては改札を出て左側です。そちらの方に、縦型のボックスがございまして、そちらの方に情報を入れるようになっております。

【久部会長】

あと、いかがですか。

【田中（喜）委員】

今、横谷さんがおっしゃったのですけれども、地域で、自治会で回覧板というのはあるのでしょうか。見てはりますか。

【横谷委員】

あります。見るというか、昼間は大半はいないじゃないですか。そうすると、母親がもうハンコをつけて回しているのです。僕が見るのは年に3回ぐらいだと思うのですけれども。ですから、「いついつ何があります」というのも、全部母親から聞かないとダメなので、そんなに、どうせこんなやろうというので、そこで情報が遮断されてしまうのです。駅にそういう「いついつ何があります」というのを貼っておいてもらえれば、「あるのか」と、「行けるんやったら行きたいな」とか、掃除でも手伝わせてもらおうかなと思う時があるので、そういうものが駅に情報が集まっていればいいなと、僕は思っているのですけれど。

【田中（喜）委員】

1つ、私どもの取り組みの中で、人を集まるためにはどうしたらいいかということで、よくやるのですよ。防犯についても防災についても、色々日常やっているのです。

例えば、日曜日に掃除しますよということで、何回もやっているのですけれども、こういった時に、ただ来てもらうというのだと集まりが悪いのです。ところが、「何か道具を持ってきてくださいよ」と言うと、非常に参加率が高いのですね。不思議なもので、普通なら逆のように思うのですけれども、そうなっているのです。その中で、先ほどからの色々なことの話の中で、各家庭で家庭用の消火器を持っている家が何軒あるかということで一度調べていただいて、ないところは消火器を置くということに対して、かなり防災意識というか、そういったものに強いと思うのです。だから、年に1回でも消火器を持ってきていただいて、その中で使い方とか、また、薬の入れ替えとかいうもので、その薬の入れ替えについては点検しながら、また、補充もしますよとかいう風にしてですね、それを持ってきてもらうようにすればかなり防災意識も高まるのではないかと、1つ、私の考えで、させていただきたいのです。

それと、その中で、色々なことを、皆さん方に来ていただいた中で話をすると、ことが起こった時に、地震とか、また、何かが起こった時に、避難する場所ですね。公な場所ということ決められているのですけれども、実際に公の場所が安全かどうかということで、非常に危ないことが多いという風な意見がかなり出てくるのですよ。実際、地域の中で、どこで避難するのだということを地域でまず決めていただいて、それには市がどういう風に関わったらいいのかという風なことを取り組んでいくべきではないかと。ただ単に、「公的な場所に避難しなさいよ」と、これだけではちょっとダメかなと思いますし。

それとまた、防災の取り組みの中で、私は河内長野で生まれ、河内長野で育って、59

年ですけれども、ずっといています。実は、天野山に生まれ天野山に育って、色々と活動をし、今現在汐の宮に住んでおります。その中で、旧村の方々と、そしてまた、寄せ集めの、今現在住んでますね、旧村の方と新住民と言うのですか、あちこちから来られた方の中の寄せ集めの所帯というようなことがどういう風なことかというのが、まだ、日常生活の中で一番よくわかるのです。その中で、やはり、これからはどういう風な取り組みをしていけば、新の住民、また、旧の住民と一つになってやれるかという、その辺のところをしっかりともっとやっていかないと、ギクシャクしたものが出てくるのではないかと思うんです。というのは、やはり、新しいところはやはり、来られたら、何かわからんという方がかなり多いと思うのですけれども、やはりそこは、旧の人に聞けば、かなり河内長野の人はよくやっていただけだと思いますし、色々なことも教えていただけますし、その辺のところは非常にうまくいくのではという風に思います。

そしてまた、大きな災害が起こった時には、土建組合ですね、こういったところの組合としっかり連携を取っていかなければ、例えば、新潟の地震のように、ユンボとかブルドーザーとかがすぐにかかってくる。河内長野はやはり、山間部を70%も持っているのです、こういったところのことがかなり起こってくるのではないかと思います。特に溝端さんですか、先ほどおっしゃったように、孤立対策というようなことが、やはり十分に考えていかなければ駄目かなと思います。

もう1点、河内長野には、国道、府道、市道がありますけれども、やはり、市と府とかいう風に分けて考えて、「これは府道だから市は触れないよ」とか、「これは市の道だから府は触れない」ということではなしに、やはり、府道であっても市が何らかの形で災害時だけではなしに、普段の時でも何かの形で触れるような方向性を持っていかないと、行き詰まった方向で必ず来るのではないかと考えているので、この辺のところも、しっかりとこれからは取り組んでいただきたいなと思います。

【久部会長】

ありがとうございます。先ほどのお話の中で、何点か私も他のところでも同じ事を聞いたなと思うのは、この前の地震の時に、箕面の一部の地域で、水道管の調子が悪くなって給水出来なくなったのです。その時に、給水車は回っていたのですけれども、地元の方々の中に、給水車が来ていることがわからなかったという方がおられましてね、議論の中で地域の中の方々が、「ここに来てほしい」という場所と、水道部が行こうとしていた場所がずれているという話があったのです。その時に、どういう対処をしたかという、先ほど、田中(喜)さんがおっしゃったように、地域の中の人たちが話し合っ、もし給水車が来るとすれば、ここここに止まって下さいということを水道部にお返したのです。そういうような関係が先ほどのお話の中でもあったので、どちらかと言うと、今は市の方が指定して、「ここに集まって下さい」、あるいは、「ここに止まりますよ」という話になっているのですけれども、それは案として一度お流ししていただいて、もし

地域の中できちんと議論できる場所のある所は、もう一度地域で議論していただいて、「いや、こちらの方がいいで」とかいう形で、柔軟にお互いの情報交換というか、案が出せるような、そんな体制をとっていただけないかなというようなお願いだったと思うのです。

それともう 1 つ、旧村と新しい方々の交流の話なのですが、これもどこへ行っても出てくる問題なのですが、この前、寝屋川でこんなおもしろい話を聞かせていただいたということで、新しい方が昔の方々のコミュニティに入っていこうとする時に、少し距離を感じる場合があると言うのです。昔ながらの地域の方々は別に拒否してはいないのですが、ちょっとした雰囲気です。「ああ、私は新しい人や」と感じることもあるとおっしゃるのですよ。それは、例えば、本当に具体的なことなのですが、地域の方しかわからない話というのがありますよね、何々さんところの息子さんがどうこうしてとか、あそこのおじいちゃんがどうこうして、という話が続くのです。そうすると、全然新しい方にはわからない話が 20 分も 30 分も続いていくと、「ああ、やはり私はここの地域の人ではないんや」というような気持ちになるのだと。ですから、そういうことは、会議中ではなくて別のところでやっていただいて、会議中ではやはり、皆が共有出来ている情報の中で意見交換していただくと、新しい方々もあまり、外の人だという意識を感じなくなるんではないかという、新しい住民さんからの投げかけだったのです。悪気があってやっているわけではないのですが、やはりずっと住んでいらっしゃる方には、沢山の地域の情報が共有されていますから、その話だけで流れていくと、ある意味入りづらくなるという話が出ました。これは総合計画レベルの話とは、かなり具体的な話になってしまうのですが、ほんのちょっとしたお互いの心がけで、打ち解けられるかどうかということが決まってくることもあるのですよという話が出ていましたので。

【田中（晃）副部長】

河内長野の方では、小学校区レベルでは旧村の方と新住民の方と同じ校区に入らっしゃるといふのをちらっと聞いたのですが、ちょっと、他の市ではそういうことがあまりない場合が多いので、特性かなと思ったのですが、いかがでしょう、そういうところは、もし、小学校区レベルでそういう交流があるという話があるのであれば。

【柳田委員】

例えば、僕は東中学校区で、旧村と新興がまさしく入り混じっている地なのです。僕が住んでいる日東町は、大規模開発で 700 世帯ほど、清見台は 1,000 くらいの世帯がある。片方では旧村の川上、天見、岩瀬、全部あるのです。ですから、PTA にしても、新旧が完全に入り混じっていますし、青少年育成会、僕も 5、6 年間させていただきました

けれども、まさしく新旧が。それはそれなりに、僕も新興の人間ですから、今言われた距離はやっぱり感じました。しかし、徐々に、今言われた旧村の話をされたら面白いし、自分にないことで、そう意味では、距離は感じながらも、徐々に変わってきています。東中学校区でも、3分の2が新興、もう超えていますよね、3分の2以上が新興の人間になっていますので、そういうのが、加賀田も7割ぐらいそういう校区です。全くない所はないですね。全部こういう。

【藤委員】

南花台が。

【芝本委員】

南花台と美加の台ぐらいかな。

【柳田委員】

そこだけが、新興だけのところで、既に新興の人間が6割を越えていますから。そんなに違和感はないですね、今は。

【芝本委員】

あんまり入り乱れるとかえって話がしにくいというか、それはありますね。健全育成でも、新興地はいいのですよ、みんなが協力して。長野はなかなか思うように協力してもらえません、自治会からはね。

【木之下委員】

私は千代田地区なのですけれども、私も新興と両方があれして。PTAとか色々参加して、私もどちらかという、もう30年になりますけど新興の方なのですけれども、安全安心とか防犯とか全てにつながると思うのですけれども、やはりこの小学校とか、まあ、高齢者とかそういう風な部分も、若者とかまた、考えなくてはいけないと思うのですけれども、やはり小学校区という、子育てする間で私はコミュニティが出来てきたかなと思うのですね。新とか旧とかという部分が入り乱れながらやることでということが大いにあったと思います。

それから先ほど、自治会組織というのが少し、だんだん減っていているということなのですが、でも、今あるものを、先ほど言ったみたいに、入りやすい方法、皆がそこに何となく参加しやすい方法とかという、緩やかな形での何かを考えていけたらいいなと、自治会というものを。だから、昔の自治会というのは、結構がちとしていて、自治会が出来ると何かをやらなくちゃいけないのではないかなという風なものをイメージさせてしまっている部分があって、「もう入らない」とか、だから、参加出来ないから入

らないという方が多くなってきているのではないかなと思うのです。高齢者になると、自治会の中で何も活躍がなかなか出来ないし、回覧板 1 つ回すのにも、「もう外にでるのが」と言う方とかいらっしやったりとか。そういう風な部分もあるだろうし、また、若い人なども、今も言っていましたけれども、目の前で回覧板、うちの娘もほとんどの回覧板を見ていないと思うのですけれども、私が内容を見て回しているのが現状だと思うのですね。同じくらいの年代なのですけれども、娘も。ですから、そのようなことも考えると、ちょっとあれなのですけれども、でも、今ある自治会というので、さきほど言っていたみたいに、コミュニケーション、色々なものの情報の流し方というのが出来る場所でいいと思うのです、これからの 10 年間、出来るところの自治会を対象に色々な試みをまずやってみて、そして、こんなことも出来た、あんなことも出来たというものを構築していけたら、これからいいのではないかなと思うので。

それで、やはり基本は、やはりお互いがよく知り合っているということがすごい大事なかなと思うのです。うちの自治会は小さな自治会で、125 世帯しかないのですけれども、やはり子育ての期間はそれが私にとってはすごく、新興に入ってきて、何もわからない所で子育てする中で、その時自治会長をして下さった方の方針でもあったのですけれども、子育ては自治会全体で、全体で色々なことを催しすることによって、盆踊りを始めたのですけれども、今、もう 30 年以上になりますけれども、毎年ずっとやり続けているのですね。それが、やはり今、娘達もそうですけれども、もう少し前の世代が私達には孫になる人たちもつれて、本当は何も集まる場所がないのです、神社があるわけでもないし、集会所もない場所なのですけれども、盆踊りだけには皆が寄って来るといいう、そういう風な場に、盆踊りがなってきたという部分も考えたりすると、やはり何かのときに、皆の顔が浮かぶという部分があるので、小さいながらもそういうようなところで、そういうようなものが出来てきているという部分がありますのでね。そうになると何かの時は、皆、安心感があるというのか、そういうものがあるので。今、自治会が減ってきているのだけれども、自治会のあり方とかを研究していく時期になっているのではないかなと思うので。今ある自治会を、どんな運営をされているのかも含めて、一度調査したりしながら、また、そういう風な部分を次の世代に、どんな自治会が一番いいのかなというところをやはり、研究するのに一番いい時期ではないかなと思うので。特に、こういうような地震とか色々あって、防犯、防災、また、子育て、子どもの安全性とか、先ほどの消費生活もありましたけれども、そういうものの情報の流し方というのを、そういう風な部分を今度の 4 次に入れていって、研究して、知恵を出し合っという部分を作っていって。あと、だから、そうすることによって、残りの部分、入っていないところにも、それが活かせるのではないかなと思うので。だから、なんとなく、その周りで所属していると思うのです、河内長野というこういうような場所の中に皆、いているわけですからね、全体がね。その中の、約 8 割弱ですけれども、者が所属している自治会をうまく運営するには、それぞれの地域で、色々な特色があってもいいの

かなと思うのです。「こうでなくてはいけない」というのではなくて。そうすれば先ほど言ったように、何となく若いグループがどこか集会所があるとかいえば、そこに月 1 回ぐらい、「ここに誰かがいつもいてるよ」、「誰かがいている、いてるかもしれない」ようなところがあれば、行きやすいかなとか。そういうところにインターネットの端末を置いて、「そこへ行けば、何か市からの情報がそこに来てるよ」というような部分が、自治会館とか色々な所の役割になっていけば、閉まったままの自治会館もよくあると聞くのですけれども、そういうところに足を運んだりとか。また、高齢者になってくると、自治会館をうまく利用すれば、ちょっと集まってお茶を飲むとか。パソコンの達人な方が教えてあげるとか。ちょっと動ける人はそこまで行くとか、色々なことにつながっていけば、安心感につながったり安全性とかそういうものを出来る部分になるのではないかなという部分が、ちょっと、今、思っているところです。

【久部会長】

ありがとうございます。よくインターネットを全ての人が使えるかという話が出てくるのですが、先ほど木之下さんがおっしゃったように、誰かが使えたら、その人が使えない人に情報を流すということが出来るのですよね。だから、個人個人を考えてしまうと、どうしてもインターネットというのは、沢山の人には使えないけれども、でも地域の中の誰かがキャッチして、使えない人に情報を流して差し上げると、少し今までの情報の流し方に厚みが出てくると言いますかね。そんな工夫もあってもいいのかなと思いました。

それと、今までの話の中で、もう 1 つ重要だなど、私はお聞きしていたのは、例えば、防犯だったら防犯の取り組みをしておられる、講演会をするということと、もう 1 つは、何かのついでにそういう話をするとか、情報を流しあうとかということも必要かなと。先ほどの盆踊りでも、集まっているから話す機会があるわけですからね。だから、わざわざそのために集まるだけではなくて、色々なところに楽しみながら皆がつながっていける、集まっていけるような仕掛けや仕組みを、もっともっと増やしていけると思うのです。

多分、旧村の方は色々な寄り合いがありますでしょう。例えば、田植えを始める時には、水をどうやって管理したらいいのかということ、年に 1 回必ず寄り合いで集まるとか。そのような時に、例えば、水の話だけではなくて、他の話も出ると思うのです。新興の方というのは、そういう何かで共同作業する集まりというのがなかなか少ないので、あえて集まらないといけないということが起こってしまうのですね。だから、そういう寄り合い的なものを新しい形で何かやっていければ、面白い仕掛けができるのではないかなと思うのですね。

先ほどの寝屋川の方も、その方は旧村の方なのですけれども、「わしは草取りに来い」とは言っていないと。草取りに出て来て下さると、そこで話が出来ると。だから、

皆の掃除を目的にしているのではなくて、掃除に来ていただくことがあれば、別にさばってもらっても構わないと。お互い顔が見えるからそこで話がしたいのだというお話が、典型的な話ではないかなと思うのですけれども。

いかがでしょう。だんだん、実は、皆さんの話は(5)番の自律協働都市の方に移ってきているのですけれども。防災の話はまだ色々であろうかと思えますし、また、戻っていただいても結構なのですけれども、時間的には少し、(5)番の自律協働都市ということで、協働の仕組み。今までの地域の問題としても、今度は市役所と地域とか、市役所と市民活動という関係とか、あるいは、行財政改革、これはかなり大きな問題なのですけれども。それから、先ほど田中(喜)さんからいただいたような、府と市の連携とか、周辺市との連携みたいな広域連携の話が(5)番の話なのですけれども、何かこの辺りで、さっきの延長上の話になると思うのですけれども、何か言ってみたいこととか、いつも思ってたことはございますでしょうか。

いかがでしょうか。特に、行政と市民とか、地域との関係づくりをどうしていくのかということが、ここでの大きなポイントだろうと思うのですけれども。先ほど、情報をもっと少し色々な工夫で伝わるようにしていただきたいという話があったのですけれども。市民委員さんの中でも、もう少し市役所のこういう協力があつたらなとか、あるいは、こういう関係で市役所とお付き合いできればなとか、そんなことが身近なことで結構ですのでいただければ芽が出るヒントがあるのではないかなと思うのですけれども。太田さん、いかがでしょうか。

【太田委員】

安全都市ということで、先ほどの話に耳を傾けていたのですが、やはり、自分のことを考えてみて、ほとんど、具体的にとういか現実に災害とかそういうものに遭遇しないと、なかなか自分のこと、あるいは、身近なこととして受け取りにくいだろうなということとは考えまして、こないだの質問にもそれは入っていたわけなのですが。自分のことを考えて、まさにその通りで、非常にそれに対する考え方が甘い。家族にそういうことを投げかけても、具体的にそういうものが本当に身近に起こっていないと、ほとんどそういう関心も持っていないというのが現実の問題ではないかと思うのです。

先ほど、前から話の出ている、情報の伝達ということなのですが、情報を伝える側としては、それぞれ皆さん、具体的に言うと、この場合ですと、市の側になると思うのですが、色々な方法で、昔よりも手段が色々ありますから、情報の量としては非常に沢山あると思うのです。ただ、伝達を受け取る側というものは、やはり、非常に関心が薄いと思わざるを得ないのです。これはもう、自分自身のことを考えてもそうなのですが、毎月来る広報の大部分を見ているはずなのですが、改めて「こういうことが広報に載っていましたでしょ」と、問いかけられますと、「えっ、そんなの載っていたの」というのが、自分自身の体験なのです。だから、本当に、今、一生懸命、伝える側として、いか

に、皆さんにそういうことを早く、正確に、いつでも伝えられるようにということをつも言うのですけれども、これはやはり、受け取る側が努力をしないといけないのではないのかなと、ある面では思うのです。

自治会というのは、これはもう、100%、その地域に入ると、自動的に入らなければいけないものであろうと思っていたのですけれども、先ほどからの話を聞きますと、自治会に入っている人はだんだんと減っていると。この内容をもっと知りたいと思うのですけれども、伝達するのに一番大きなウエイトを占めるのは自治会を通してということではないかと思うのです。78.5%というのは、これは非常に、他の伝達する側としては、非常に大きなウエイトを占めているわけですから、この78%を80%、90%に持っていくことが、大きなやり方とは思いますが。そして、その幹になる自治会に対して、どういふことで情報を何回も伝えていくかという方法をこれから考えていくのがいいのではないかなと思っています。

河内長野は今まで、災害等においても、これをずっと読ませていただきましたけれども、非常に少ない。ほとんどないに等しいぐらいのものではないかと思うのです。ですから、具体的に本当に災害でも起きた場合に、どれほど機能するであろうかということ、今から予測は出来ないかと思いますが、多分これは悪いことなのですけれども、そういうことは具体的に起きて初めて、阪神の大震災から大きなことが始まって、今度の新潟についてもそうなのですが、そういう時に初めて、色々な情報の伝達、そして、受け取る側はこういうことだということで、初めて、機能していく部分が、残念なことですけれども、どうしてもそうならざるを得ないところで、日ごろからやっておかなければいけないのは、やはり、今、私が考えるのは、受け取る側の方がどういふ形でこれから対処していかなければいけないのかということを中心にやっていった方がいいのではないかと思っています。

【久部会長】

ありがとうございます。他いかがでしょうか。木之下さんは普段は色々な市民活動をやってらっしゃるのですよね。その辺りで、市役所との関係とか連携とか、何か思うことがあれば、少しご披露いただければ。

【木之下委員】

防犯・防災だけでいくとあれなのですが、協働という部分においては、今、協働と言いつけたのが市役所で、市民側は早くから協働と、全体ではないのですが、自治会に入っているというのと同じで、やるという人が動きを作っていくと思うのです。だから、これからやはり、それともう一つ、市民の自立ということもよく言われるのですが、消費生活とかに関わりを持つ時に、「自立しなさい」とよく言われるのですが、私達はそういう教育というのはあまり受けていないということもあるのですが、市役所との協働と

いうことを考えた時に、各部署の窓口がそれぞれ違うということが一番あれなのと、すごく、市役所に来た時に、一市民として来た時に、カウンターというのがすごく高いところに感じられるのです。私なども、今このようなところで話していますけれども、すごく気が弱いので、カウンターがすごく高く、「あの」と声を掛けるだけでも、すごいい、何か書類を1つ作ってもらおうとか、何かを聞きにいこうかといった時に、すごく高く感じるという部分が、私が一番最初に市役所に持った意識なのです。

一旦でも扉を開いて、そういうところでコミュニケーションが取れば、それぞれ色々なことを考えて動いてくれていることがわかるのですが、そうでないと、なかなか扉をたたきにくい部分でもあるというのと、それから、やはり、限られた予算とか色々な部分で動いているという、制度とか市役所とかいうことなのですけれども、協働というところで、元々は市役所もそうだと思いますけれども、自分がいつも基本に置いているところは、市民、自分達が何かをやって動いて、そして、色々なことが出来ない部分を作るのが市役所の役割かなと、最近少し考えているのです。でも、市役所に行った時に、そういういいことをやっている色々なグループが今、生まれつつあると思うのです、意識を持った人たちのグループが。でも、その人たちが活動する時にも、やはり、何かを求めて行く時に敷居は高い。私はどちらかと言うと、逆の入り方というか、相談員という形で最初に入ったので、内側からも少し見たりという部分も少しあったので、そういうような部分は、どちらかというとまだ、市役所に色々な形で協働体制を取ってくださとかいうことを最近少し言えるようになってきたのですけれども、そうでない部分は、何か、すごく色々ないいものがあったりしても、それを伝えるに、まだいっぱいあるかなと思うのです、行政という部分、特殊な組織かもしれないけれど。でも、もともとのことを考えると、やはり、住民がいて、私達が普通に生活していれば何も無いのですけれども、それを、自分達で出来ない部分を皆でやりましょうというのが行政の役割だと思うので、もちろん住民側も「これやってちょうだい」とか言っていくところではないとは思いますが、そういう風なところをつい言ってしまう、直接窓口にもね。言っていく場所がないので。だから、その対応に行政は結構苦慮していらっしやることあって、私もびっくりしたのですけれども、何かを質問していくと、それは、苦情処理みたいになっているので、質問しただけなのに苦情処理なのかなとか、ちょっと思ったことがあったので、そういう風に捉えているのだなというところがすごく「ああ、そうなのか」と、改めて最近思ったのですけれども。窓口の対応の処理の仕方としてそういう風な。

【久部会長】

ありがとうございます。私も色々な市町村の役場とか市役所に行かせてもらいますけれども、河内長野のカウンターは、物理的にはまだ低い方かと思うのですけれどもね。それでも市民の人には気持ち的には感じると。

多分、私が今のお話を聞いて理解させてもらったのは、用事がある時にしかお互い話をしませんよね。その関係をもっと崩していくと、立ち話みたいな話の中で、行政の職員さんとの関係が出来たり、ちょっとついでに何か質問したいという話になったら、もう少し違うのだらうと思うのですけれども。お互い多分、今の状況であると、用事がある時に行く。そして、それが、そこでもう心のバリアになってしまって、お互いに構えてしまうという関係だと思うのですね。多分、白木さんなんかはこの前の自己紹介の時に、市役所の職員さんにお友達がいたから、声を掛けてもらったという、そういうお友達だったら、気軽にこういう市役所のことを聞けますよね。何かその辺りが1つのポイントなのかなと。やっぱり、「言う」、「言われる」の関係で、友達関係で話が出来ていないというのが、先ほどの話を聞いて思ったのですけれども。白木さんとかはどうですか。お友達が市役所に具体的におられるというような、市役所の距離とか関係は。

【白木委員】

そうですね。入りやすいという分もありますし、この前も少しお話ししたのですけれども、公園のことで市役所に電話した時も、窓口が違うということで、電話をかけられないので、私はこういう風にしてほしいけれども、すぐにそういう風になるとは思ってなくて、こういう意見が色々集まっていったら、皆そういう意見を持っていったら、どんどんそういう風に良くなっていくだろうと思って、意見として言いたかったのですね。でも、「窓口が違うから、ここに付けてくれ」と言われて、「こういう意見があったということをお伝えしていただけますか」と言ったら、「いや、直接言っていた方がいいので」という風に、そういう風な言われ方をすると、他の意見があっても、「ここにかけて、また窓口が違うのかな」という感じで、言う気が萎えるというか。私が思っていることが、他の方も同じように思っていないのかなという、そういう周りが見えなくて、「他の方がこういう意見を言っていますよ」という状況が見えて、自分もそういう風に思っているのだという風に言えると、何か言いやすい場面もあるのですけれども、そこでもうシャットアウトされてしまって、窓口が違うという風に言われると、あまり皆が気軽に意見を言えないというか、そういう感じがします。周りの意見が見えて、自分も意見が言えるような環境があれば、言いやすいのではないのかなと思います。

【久部会長】

電話をかけられた時も、ある意味で勇気も持って電話をかけたのに、そこでピシャッとやられてしまうと、「もういいわ」という感じになりますよね。

多分、先ほどの木之下さんの話も白木さんの話も、言っていらっしゃる方は、軽くちょっとお伝えしようと思っているのだけれども、職員さんの方が重く受け止めてしまって、「何とか返さなければいけない」という姿勢になってしまっているところにずれが起こったのかなと思うのですけれども。ただ、一方で、職員さん側の立場からすると、そ

んないい人ばかりではなくて、やっぱり「何とかせい」という意見も入ってきて、重く受け止めないと、また、逆に叱られてしまうというところもありますよね。

今はどうなのでしょう、市役所側の、市民との接し方とかそういう形で、市職員さん全体に何かお話になっていることとか、あるいはそういう指針、私も今、作らせてもらっているのがそういう 1 つの指針ですけども、そういう指針めいたものがあるのか、共通の姿勢みたいなものがあるのかというのはどうでしょう。これは、そちらに聞いた方がいいのか助役さんに聞いた方がいいのかちょっとわからないのですが。

【藤委員】

私がいつも、課長会とか部長会で、全庁的にはちょっとなかなか、職員を集めて言いくいものですから、組織としての課長会であるとか、部長会であるとかいうところで話をするのですが、流れをずっと見ていただくとよくわかるかと思うのですが、昔は行政の方は、住民の要望を充たすというよりも、何か 1 つ、まちづくりのために行政が決めて、それをやっていたと。ところが、それでは、住民がやはり満足しなくなってきていると。どうして満足しなくなってきているのですかと言うと、そこで生まれ育った人は、あまり環境の変化がわかりませんから、「これでいいのだ」ということでずっときたと。ところが、新しい人が入ってくると、「おかしい」と。「なぜ長野はこんなことをしているのか」と。そして、「よその今まで住んでいた市では、こんなことをしていたよ」ということの比較が出来るのです。そうすると、そこに、新しい住民からの不満が出てくるのです。そういう風なことが、昭和 40 年代から起こってきまして、50 年代まで来ると、このことを何とかしなければいけないという時代に入ってきているわけなのです。長野はよその市と比べて 10 年ほど遅れていますから、よく私が、課長会とか部長会で言うのは、自治というのはいまず、自ら知り自ら治めることだから、住民が何を望んでいるかということ把握しなさいと。そして、その上に立って、行政がその中でしなければいけないことをやるように努めなさいよと、こういうことを最近よく言い出してきているのです。

今、1 つ、ジレンマになっているというのは、協働という言葉が出ましたよね。どこでも皆、使い出しているのですけれども、まだ職員の中にも、はっきりと協働という言葉がどういう意味をなすかということは、1 つにまだなっていないと思うのです。これから、新しい第 4 次総合計画の中で、それを取り入れてやらなければならないのです。

協働というのは今、お金がないから言い出したというわけではないのですけれども、やはり行政としての、先ほど来、木之下委員からも出たのですが、行政としてやるべきことは当然やらなくてはいけないのだけれども、行政がしなくてもいいことまでしているのではないですかと。そこまですると、住民からすると、やはり甘えが出てくる恐れがありますよと。だから、まず、個人的にやらなくてはいけないこと、そして、地域でそれをまとめてしなければいけないこと、その上に立って、行政が当然やるべきことが

あるでしょうと。そのことを行政がしなさいよということを言っているのです。それがまさに、協働という言葉ではないかなと。そのためには、やはり、情報なのですね。情報を流していかなければいけないということがありますので、私はそういう意味で、課長会、部長会の中で、まず、自分でしなさいと。先ほど少し、臨場感という話も見ましたけれども、まず知ることだと。知った上で、行政の役割を十分に掴んでもらう。そしてそれを施策に展開させていきなさいと、こういうことを言っていますので、大分、徐々に変わってきているのではないかなと思います。ただ、隅々まで、740名の職員までいっていますかと言われるとちょっとあれなのですから、そういう方向性でやっています。

【久部会長】

私の経験で言いますと、よく我々の分野で、まち歩きを企画をされて一緒にやるのです。そうすると、課長さんなども一緒に歩いてくださって、そこで市民の方々と歩きながら色々な情報交換をされているのです。「実はうちのまちで今、こんなことが起こっているんやけど、どう思います」みたいな、気楽な話が出来ている。先ほどの話とも関わるのですけれども、お互いが面と向かって話をするだけではなくて、何かの機会に話が出来ると、そういう機会をもっともっと増やしていけば、お互いの関係が崩れてくるというか、変わってくるのだと思うのです。それがイベントであったり、色々な企画と一緒に組み立てていくことであったり、多分その、色々なイベントを、市民と実行委員会で行っていると、何気ない話の中から、職員さんと市民の方々が情報交換出来たりしていますよね。敢えて、わかりやすいパンフレットをきちっと作るだけではなくて、そんな何気ない一瞬で情報というのは共有できるのではないかという気がするのですけれども。

私はよく、職員さんの研修をやらせていただいている時には、用事のない時にお付き合いが出来るとなっていていけば一番いいのではないですかという話をするのですけれども。

どうしても、お互い用事がある時に人間関係を作ってしまうから、しんどいのかなという気はするのですが。いかがでしょうかね。

【藤委員】

自律協働都市に入りましたので、広域連携ということで少しお話をしてみたいのですが、もうすでに皆さんもご存知とは思いますが、合併の問題が出てきて、来年の3月が特例期間の期限なのです。この河内長野市も、合併ということではなくて広域ということで、南河内の自治体さんとともに、広域行政についての話し合いをしまして、そして合併という道筋を選んだ団体と、河内長野市はとりあえず、自分でやっていけるための改革をしようということで、ここ数年間、河内長野市は、行財政改革であるとか財

政再建のプログラム案をこしらえて取り組んできております。しかし、何も、合併という問題が、しないというわけではないのです。まちづくりという観点については、当然ここにも挙げておりますけれども、広域連携から始まって、全ての点である程度、連携がなれば、1つのまちづくりのために、合併してもいいのではないかという考え方も持っているのですが。そういう風な観点から、皆さんが住んでおられる中で、「こういう風な連携ではどういうことをするのですか」とか、「こういう風にしたらどうでしょうか」とか、もしくは、「よそがやっているような合併も考えたらどうでしょうか」というようなご意見もいただけたらと思いますので。今までの、来年の3月までのことについてだけ、少し申し上げたいなと思います。

【久部会長】

大阪府内はなかなか合併がまとまらないのは、神田さんの方でも色々とお感じになっていると思うのですけれども。あまり情報提供するのもしどうかわかりませんが、昨日、岸和田の都市政策研究所が懇話会を企画してございまして、大阪市大の政治学の加茂先生とお話をしていたのですが、加茂先生はこの数年間で100近い市町村、特に地方部を回られて、合併するかしないかという話をヒアリングされたいいのですけれども、どうも、合併しようする市町村は、今の財政赤字を特例債とか、そういうお金がいただけるから合併するのだというところがかなり多いと。逆に、福島県の矢祭町とかが特にそうですけれども、合併しないと宣言したところは、覚悟を決めているわけですね。そういう特例は使わない、でも、何とか自分達の力で財政を健全化したいというような形になっていると。そうすると、総務省は、いい方向に持っていこうと思っているのかもしれないけれども、ある意味で逆効果で、安易に考えているところほど合併して、真剣に考えているところが合併をしない。本当は、真剣に合併しているところに総務省は手を差し伸べた方が日本全体が良くなるのではないかと、加茂先生はおっしゃっていたのです。

その辺り、合併する、しないというのは、最終的な選択なのですけれども、そこまでにどのような経営の戦略を持っていて、何を考えてきたということが非常に重要で、私の知りえた範囲の中で言うと、それを非常に一番真剣にやってきたのが篠山市なのです。篠山市は特例が出る前から合併を考えていて、もう合併しかないということで、4町が頑張って合併して1市になったわけですが、そういうことで、先ほど、藤さんの方から投げかけられたのは、財政の健全化という話とか、あるいは、色々な行政の効率化とかということも考えながら、広域行政、あるいは合併の部分みたいなもので、少し、皆さんからご意見をいただければということだったかと思うのですけれども。いかがでしょうか。なかなかこの辺りは勉強していないと、言えない話が多いのですけれども。

【田中委員】

今ちょっと、広域のことが出ましたのですけれども、今度河内長野市で防災センターが計画されているのです。その防災センターというのは、広域的に考えての防災センターなのか、それとも、河内長野独自でやる防災センターかという風なところで、少しお話を聞けたらと思いますけれど。当然、広域的に考えてやっておられるのだと思うのですけれども、その辺のところを少し、今日はまあ、いてはりますので、その辺も少し、お聞かせ願えたらなと思います。

【藤委員】

安心・安全の中で、前回も少しお話をさせていただいたのですが、防災で消防の庁舎と防災の拠点施設ということでの建物を、平成 20 年度の完成に向けて取り組んでいます。当然、河内長野市の場合は、奈良とか和歌山と、山を囲んで成り立っているものですから、そういうところで山火事についての協力体制、それと、隣接する町村との協力体制をつんだ防災計画を持っているのですが。そうしたら、どれだけの広域の中でやりますかということ、建物についての、お互いの、隣接している団体と協力しあって作ろうということではなくて、とりあえず、河内長野市の消防庁舎と、そして、防災センターを作りましょうということをやっているわけですけれども。活用する範囲については、もし、大きな地震が来て、河内長野市の被害が少なければ、隣接を救済するための拠点にも使っていただけるであろうし、また、反対に、奈良、和歌山の方で起こった時のヘリコプターの発着場所にも使っていただけるということになるので、活用面においては、広域的な考え方が十分やっていけるのではないかなと。ただ、建てる時は、独自のことでやっていますけれども、活用面では広域行政でやっていけます。

【久部会長】

具体的に、今は、近隣市町村との相談の上で建てているということではないと。はい、いかがでしょうか。

これから、近隣市町村も色々な施設を整備したり、あるいは、ソフトな施策を持っていく時に、合併しなくても、少なくとも情報交換の中で、お互い 1 つにしていこうではないかと、連携して無駄を省こうではないかという話は、どんどんやっていくべきではないかなと、私は個人的には思います。

【神田委員】

合併の問題は、先ほど藤さんがおっしゃったように、来年の 3 月で一応、非常に有利な特例措置は切れるわけですけれども、制度自体がなくなるわけではありません。今も少し、議論になりましたけれども、例えば、広域防災の関係をどうするかとか、それから、河内長野市さんもそうですけれども、例えば、ごみの問題をどうするのかということ、制度として、地方自治法上で、例えば、一部事務組合であるとか、広域連合とい

うような制度があって、そのようなものを活用していくことが出来ることは出来るのだと。ただ、問題は、非常に、そういう 1 つの地域について、全部が一緒に課題を抱えているわけではないですから、そういう広域行政をやるとしても、例えば、「ごみはどうだ」、「し尿はどうだ」、「下水はどうだ」という組合さんがいてはるといふこと。いざ何か、そういう課題が起こった時に、非常に、各自治体が当然、自らの行政判断というのがやはりそれぞれありますから、そういうものに掛かると、結果としてのコストも当然かさむと。そういう場合に、今後の高齢化社会というのが本当に急速にきていますから、そういう中で、このままの、今の行政の枠組みでいいのかどうかというのが、合併をしないに関わらず、やはり、住民の方々も含めて、一定の議論をしていただく必要があるのではないかなと。それは結果として、部会長がおっしゃったように、我々はこのまま、100年とかいう単位ではないと思うのですけれども、少なくとも10年とか、15年とかいうのは、当面、自立した、自分達の今のまのままで頑張ろうと。そのために、どういふことをしないとイケないかといふことを、より真剣に考えていただくことになるといふので私はいふのです。

今、17年3月末で合併といふ議論がもう終わったといふことではなくて、もちろん制度としてはありますし、先ほど、部会長がおっしゃったように、篠山市は、今の特例措置のない前に、聞きますと、やはり、30年近くの何べんもの議論の中で、一定一緒になろうといふ決断をされたといふことですので。そういう議論といふのはやはり、近隣市とも色々な機会を通じて議論をしていくべきではないかなと。その結果の選択は、それぞれのまちの主体性といふものは当然尊重されるべきではないのかなと思ふのですけれども。

【久部会長】

ありがとうございます。私が全体会議の時に、背景のところでもう少し取り組むことがあるのではないかと若干投げかけさせていただいたのは、まだまだ認識としては広がっていないのですけれども、21世紀になってかなり社会全体が変わってきているのですね。それを受ける形の社会の仕組みを作り変えていかなければいけない部分がかなり出てきたなと私は認識しているのです。その1つが、こういう単位のくり方がかなり変わってきているのです。1つの典型といふのがEUです。EUといふのは、私は、21世紀型の非常に面白い仕掛けだなと思つていまして、つまり、各国の独自性を残しつつも、緩やかに連合していく。職員さんも各国から出していくし、負担金も出していくといふ形の、非常に、今までなかった形の連合体を作り上げていっているわけです。例えば、ユーロといふ通貨を作りましたが、イギリスはまだポンドですね。押し付けていけないのですよ。その、ユーロに乗ってこられるところは、まず、乗っていきましょうといふことです。それから、今、ウクライナが揉めていますけれども、入る、入らないといふのも各国の判断で、入りたいといふところはEUに入らせていただきますよ

というような形のやり方なのです。これは非常に、ある意味で新しい形なのです。こう
というような形が、市町村と広域連携、あるいは、府と市町村の関係の中で、出来るのか
出来ないのか、これはまあ、すぐには動かないのだと思いますけれども、この10年間に、
やはり、私は、新しい広域連携の形というものを検討する必要性が出てきたのかなという
気がします。先ほど、神田さんがおっしゃったように、一部事務組合ということで、そ
れぞれ、目的に合わせての組合は出来るのですけれども、より総合的に色々な形で検討
しましょうという形を、今は、多分、連絡協議会的な形で何かがあった時に集まるので
すけれども、ちゃんとそこに職員さんがおられて、きちんと、相談が出来たり、連絡が
取り合えるような関係みたいなものを作っていくということが必要かかなと。そうす
ると、合併とか単独市町村ではない、もう1つの選択肢が出てくるのですね。その辺り、
私は個人的には、やってくださいとは言えないが、検討するぐらいはこの総合計画に
載せていく必要があるのではないかと。あるいは、背景の中でも、そういう新しい社会
の仕組みというものが求められる時代になったのだというような書きぶりを、背景のと
ころにも少し書いていただけないかなという気がするのですけれども。いかがでしょう。

もう1つはやはり、先ほど、藤さんの方から投げかけていただいたように、市民の方々
がどう思っているかということもあるのですね。1つの典型的な話ですけれども、奈良
の西側、生駒のちょっと下の方ですね、斑鳩町とか平群町とか、この辺りが合併すべ
きかどうかということで、この前、住民投票をしたのです。そして、平群町だけが推進派
が多かったのです。あとの町は全部、反対派が多くて、流れてしまったのです。その
時に、私は、平群町の住民の方を支援をしまして、推進派の方々は、何回も議論の
場所を作って、自分達も勉強して、ニュースを作って皆さんに配布して、合併がなけれ
ば平群町は大変な状況になるのだということを住民側が訴えかけてやったのです。その
成果として、平群町は推進派の方が多かった。でも、他の町は、そこまで住民さんが盛
り上がっていないのです。他人事のように、「投票に行きましょうか」、「どっちがいい
ですか」ということになってくると、どちらかというと、現状維持の方が気持的には、
そちらの方に動いてしまいますよね。それで多分、反対が多くなってくるのだろうとい
うことだろうと思うのです。そういう意味で今、大阪府内でも、いくつか合併協議会が
つぶれたというところがありますけれども、住民投票をした時に、皆さんが本当に理解
をして、イエス、ノーを入られているのかどうかというのが、ちょっと私はそういう
意味では疑問なところが若干あるのです。そういうことで、ちょっと市民委員さんに、
正直なお話でいいのですけれども、「ちょっと、私には難しいから関係ないわ」とか、あ
るいは、「やっぱり勉強せなあかんわ」とか、そんなあたりの本音を、今日の時点で聞か
せていただければと思うのですけれども。横谷さん、どうですか。

【横谷委員】

細かいところでは、「色々こういうのがあればいいのにな」とか、「こういうお手伝い

をしたいな」とかいう考えはあったのですけれども、将来このまちがどうなっていくのかとか、どうしていくべきなのかということを学ぶ機会というのは、中学校、小学校の時に、河内長野のまちがどういうまちで、どういう工業があって、そこでやっぱり止まってしまっているのです。その後の勉強で、自らそういう風に取り組んでというのは、興味のある分野なので、色々勉強してきたつもりなのですが、河内長野に集中して勉強したことというのはほとんどなくて。これから将来どうなっていくのかとか、現状で本当にここが一番問題なのだとか、もっと考えてくださいとか、市からそういう風に、どこがポイントなんですとか、そういう勉強会とか、レクチャーをしてくれる場とかがあれば、勉強していかないとダメだなと、今、久先生の話聞いて思っていたのですけれども。

【久部会長】

私は、この資料をいただいた時に、非常にわかりやすく、長野さんとモックル君がやっているのですけれども、多分、これをどれだけ皆が中身まで真剣に読んでいるだろうかというのがありまして、この辺りがやっぱり壁でしょうね。いかがですか、例えば、村上さんはこれは。多分、広報が好きな村上さんなら読んでいるかもしれませんが、

【村上委員】

そこを最初は読み始めたのですけれども、途中からわからなくなって。

【久部会長】

多分、1つひとつの言葉とか内容に引っかかりますよね。

【村上委員】

そうですね。読もうという気はあるのですけれども、私の知識では少しわからないところとかも結構あるので。

【久部会長】

これは、私自身も読ませていただいて、かなり工夫はしているのだけでも、やはり、1つひとつの言葉づかいとか内容が難しい。私もこういう情報を作るお手伝いをするところなのですけれども、出来るだけ正確に伝えようとするほど、どんなに頑張ってもわかりにくくなるのですよ。非常にアバウトでいいから、ポイントだけを、ちょっと間違った表現でもいいから伝えるようにすれば、思い切ればもっとわかりやすくなるのです。そこが行政の情報としてはなかなか思い切れないのです。ということがここにありますよね。もっとくだけた、広報に載せるからこうになってしまうので、「ちょっと間違っ

ていても要点が伝えられればいいや」というようなパンフレットを何か工夫しないと、なかなか難しいですね。

【木之下委員】

先ほどの協働というところにもそれは結びついていくと思うのですけれども、それから、先ほど、教育スタイルとか勉強もしたいとか色々思っている人、私達の時には、小中学校の時には、あまり地域のこととかをしなくても、もうそこに住んでいたというのがあったのですけれども、やはり、色々なところから集まってきているので、親たちはあまりこのことを知らないのです。ですから、やはり、小学校、中学校を通して、子どもの時にこの地域のことを色々学んでいますよね、皆ね。私は知らないのですけれども、子ども達はそうだと思うのですけれども。それで、感傷を持ちながらも何となくきてしまって、どこへどう行ったらいいのかなという部分があったりとかするというのはあるので、すぐにそういう風になるのかなというのは別にして、やはり、行政というところと少し離れた場所でもいいのですけれども、市民が、今の広報にもつながるのですけれども、情報としてくだけて知らせてあげられる、市民の目を通して何かそういう風な部分を出来るところというような部分を作っていくのがこれから、そういう風な場所が必要なのではないかなと思うのです。そこにはだから、そこによくご存知の方がいらっしやいますけれども、の方ももちろんね、そこに情報を取りに来るぐらいのような場所とかもそうだし、どう言ったらいいのかわからないのですけれども、私は環境基本計画の時に、その部分を少ししたのですけれども、環境というところで「環境づくり市民会議」という、仮称でそういう風な部分をちょっと作ったのですが、やはり、自分たちのものは、先ほど言った自立ということを考えて、学習の機能があったりとか、また、緊急事態の時には、そこに持ってきて、どれが一番、今、市にとって、市民にとって重要なことなのかとか、色々なものを持ち寄ってきて、話したり学習したり、また、情報を流したりという風な部分が、どこか、これからの10年で、そういう風な部分を作るという部分が何かあれば、もう少し、これからの、先ほどの先生の、話が飛びますけれども、ヨーロッパのEUですね、そういう風な部分を河内長野市でまず、市内の市民と行政という部分でまず、河内長野市の中でそういうような部分を一度検討して作ってみると、そういうような場を作って、学習していくという。それがまた、広域にもつながったり、色々なところに行くのではないかなという部分を、ちょっと今、ふと思いついたのですけれど。それが早道かなと。この10年間、そういう風な部分に行けたらいいなど。先ほど、久先生が、枠組みみたいなのを後ろに背景に書いておいたらいいなという部分で、住民と行政の協働というところで、是非そういう風な場を作っていく研究でもいいと思うのですけれども、それが早く出来るのかなと。今のITとか色々使いながらね、そういう風なものをしながらすればいいのかなと。例えば、市役所のこの場合はここ、この、月のうちのこういう風な部分では、色々なことも、問題を持ち寄って話し合

える場だよかという風な部分を、あと持ちながらいくような部分というのをまず、作ってみるという。最初は1人か2人かわからないけれどもというのがいいのか、それはちょっとまだ、今のところ全然形には、私達の中ではなっていないのですけれども。

【久部会長】

多分、1つは、先ほど私がお話した、市役所が出すと、どうしてもきちんと出さないといけないので、それを一旦、市民が呑み込んで、市民の責任で出してもらおうと、少し間違っているけども、市役所の責任ではなくなりますよね、少し乱暴な言い方ですけどもね。そういうことが出来ないだろうかという話が1つあったと思うのです。

それから、今、市政を知るための連続講座だとかプログラムなどというのは、市役所でやっておられるのでしょうか。

【中野企画グループ主幹】

平成16年の11月から、まちづくり出前講座ということで、34講座を設けていまして、市民の方、10名以上の団体が申し込んでといういことで、内容につきましては、市の仕組み、暮らしの安全、税・保険・年金、福祉・健康、環境、産業、生活、教育と、それぞれのジャンルで34の講座ということで。

【久部会長】

それは、何人集まれば。

【中野企画グループ主幹】

10名以上です。

【久部会長】

大体、10名が多いですね。私は、10名は少し多い、敷居が高いのではないのかなと、4人ぐらいでいいのではないかなというように思うのですけれども。それは木之下さんが先ほどちらっと「知らなかった」と話があったように、多分、情報が伝わっていないのですよ。私は、他のところでもそのことを聞きます。

【木之下委員】

さっと読んだような気はするのですけれどもね。ぴんときていないという。

【久部会長】

他の市でも、「あ、やっているのか」と、初めてここで知る例があるので。そういう機

会をもっともっと作っていただければと思うのですけれども。

【木之下委員】

すいません、その講師は。

【中野企画グループ主幹】

市の職員です。

【久部会長】

はい、どうぞ。

【柳田委員】

協働の関係で一言言わせていただきます。市民参加、協働という形で今、取り組んでいますし、これからも取り組んでいかなければならないのですけれども、一番の視点は、高齢者に対する取り組みをどうしていくのかというのが一番大きな問題だと思っているのです。と言いますのは、もう古い話ですけれども、20年前に中国に行った時に、4都市、5都市を回ったのですけれども、OBの方が、交差点に立ったり、あるいは、保育所にいたり、学校の教師と一緒にやったりということで、社会参加という意味でかなりしていることが強烈にイメージとして持っているのです。ところが、いざ日本の状況を見てみると、老人会では活動しておられますけれども、行政として社会参加をどう求めていくのかという視点がどうも弱いような気がして、これを1つ、今後の議論に加えていただけたらなというのが1つです。

もう1つは、広域行政の関連で、つまらない話なのですが、ずっと前から言っているのですが、以前、キックスが出来るまでに、我が河内長野の図書館は情けない図書館というイメージがありまして、現実に私の子どもも、狭山の図書館に行って借りてくると。ところが、狭山の市民が働かしないと借りられないということでした。「お父さん、何とかしてや」ということで、当時、議員をしていましたので言われまして、僕自身も色々な本を読みたい時に、狭山に行って借りていたのです。ところが借りられない、現地で見ないといけない。今度は逆に、広域行政の場でも実際に言ったことがあるのですが、我が河内長野が、まだキックスが出来ていませんでしたので、あまり強く言えなかったのです。ところが出来たから、もう、堂々と、「市民が使えるようにしたらどうですか」という形で言っているのですが、残念ながら、我が河内長野もそうなのですが、我が市民のためという枠を張って一步も進まないという状況なのです、未だに。その時の話は、「市民が困る」と。楽しみながら来たら、「今貸し出しです」では大変なのです。それはまあ事実なのです。しかし、それは、例えば、貸出冊数を制限をするなどという方法を、ちょっと差別化を図ることによって、住民の了解を求められるのではなからうかな

と思っているのですけれども、かかって、広域という意味でいくと、河内長野を超えて常に連携する意味で、細かい話ですけど、そういう積み重ねがない限り、僕は、広域行政は進まないし、合併なんてとんでもない話であるというぐらいのレベルでしか受け取れないのですね、今の状況からいくと。そういう、もっと、隣まちとこういう連携をもっと市民レベルで、僕は探っていけないといけないと。また、それを、行政を動かしていかなければいけないのではないかという思いがありましたのです。

【久部会長】

ありがとうございます。実際に私の知っているところで言いますと、阪神間の市町は、図書館利用も提携されていますし。

【柳田委員】

東京ももう広域ですね。

【神田委員】

府域で言うと、中河内が。

【久部会長】

そういうのを是非とも検討していただけないかという話ですね。それともう1つ、私は、先ほどのお話を聞いて、摂津圏文化行政連絡協議会というのがあるのです。それは、何をやっているかということ、ホールをそれぞれのところが持っていますでしょ。で、東京とか遠くから呼ぶと、その交通費だけでも大変なのです。1回呼んで、連続講演をやらせたらと安上がりするのです。そういうことで、例えば、伊丹で呼んだら、そのついでに、西宮と尼崎に寄って帰ってもらうとか、そんな連携が出来るような形でやっています。これは私が投げかけさせてもらった問題ですけれども、たまたま伊丹の市役所に知り合いがいて、「どうせまとまるのは同じ阪神間の兵庫県側だけじゃないのん」という話をしていたら、「いや、大阪も呼びかけます」ということで、今、池田とか豊中とかですね、猪名川をまたいだ、本当の昔の摂津圏で連絡しながら、そういう共同開催みたいなものを行っているのです。何かそういうことも、図書館だけではなくて、効率化という意味での貢献になるのではないかなと思うのです。富田林でも立派なホールを持っておられますし、そういう意味では、お互い、催事とかイベントの連携というものが出来れば面白いかなと思うのですけれども。

【木之下委員】

今、それについては徐々にやっているみたいです。文化会館同士が。

【久部会長】

やっていますか。なるほど。

【木之下委員】

出来ることはということで、やっているみたいです。帯でやってみたり、同じ事業に取り組んでみたりとか。

【久部会長】

だから、先ほど柳田さんもおっしゃったように、小さなところから近隣市町村とつながっていくことを重視させていくということが大切でしょうね。

12 時を回ってきましたけれども、あとはいかがでしょうか。また、次回も延長戦で、事務局の方とも相談して、少し今日の話も整理させていただいて、皆さんにまた何かしていただきたいと思いますが、是非とも今日何かというお話はいかがでしょうか。

よろしゅうございますか。また、今日の話に刺激を受けて、帰られたら、「あ、この話も言ってみたいな」という話も出てくるかと思しますので、また次回、その辺りをご検討いただけたらと思います。

それでちょっと、先ほど、木之下さんの方から情報の発信の話が出たのですが、町会の町会報というのがありますね。あれを本当はどどんわりやすく出していった方がいいのですが、なかなかお時間がない、あるいは、技もなかなか限界があるということで、私の知り合いが、実は面白い NPO を立ち上げていまして、町会誌を編集してあげようという、編集から印刷までしてあげようという NPO を立ち上げているのです。いくばくかのお金は当然いただきますけれども、自分達がやろうよということも大切なのですが、そういうノウハウとかを持っている人が、同じ市民の中でお手伝いしましょうと。その代わりに、お金をいただきますよと、そんな新しい試みを、河内長野でも出来たらいいのではないかなと、ちょっと情報提供させていただきました。

【木之下委員】

それについては、私も色々なことをやって行く中で、やはり、原則は受益者負担で、というのを私は、必ず全員の持ち物であるという、受益者負担制を必ず入れていただきたいと思うのです。だから、無料が必ずしもいいのではなくて、受益者負担というのを入れながら、やっぱり、自分達が利用するものを、やっぱり、利用すればそれをきちっとやっていくというのを原則にさせていただけたらなと。

【久部会長】

この前、ある市で、法律相談の話が出ていまして、例えば、お年を召した方の遺産相

続の話があって、それが市役所であったらただでやれると。「金持ちだから、それぐらい、自分で弁護士を雇って払ってくれたらどないですのん」という議論が出ていましたね。そういう意味で言うと、先ほど木之下さんがおっしゃったように、何でも無料というのは、ちょっとこれから考え直していかなければいけない時期かなというのは思いました。

ありがとうございました。それでは、また次回、続きの議論をさせていただきたいと思います。

それでは、次回の日程を決めておきたいのですけれども、年末年始でお忙しいのですけれども、1回開いておきたいなということなのですけれども、どちらがいいですかね。年末と年始、どちらが気持ち的には。

(日程調整のやり取り)

それでは、年始早々でございますけれども、8日の午前10時からということで、よろしくをお願いします。

以上で案件は終了させていただきますが、それでは事務局の方にお返しをいたしますので、後はよろしくをお願いします。

【土井企画グループ長】

本日はどうも、様々なご意見をいただきまして、ありがとうございました。次回、第3回部会は、1月8日の土曜日午前10時から始めますので、場所は、今、確認しましたところ、301、この部屋だということでございますので、よろしく願いいたします。どうも、本日はありがとうございました。